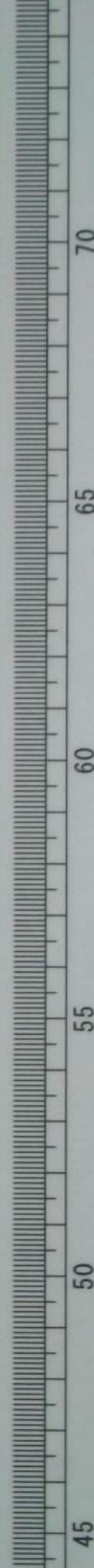


詞
源
抄

ホ 2
543
2



日
九

おがつかみみやこのきくらやいらあらん
はよひのむすの月きらるふも

を

日
一

きりけりくもさあてきんく
まがきんまきんまきん
のはくく

後
十一

にまはたよ
人かまのあかん
ゆきあはれまきん

後
十二

あまきみあまきん
はくくかかん
まかかん

全
七

よまかまちるまきん
まかかん
まかかん

ゆきまきんあまきん
はくくかかん
まかかん

ゆきまきんあまきん
はくくかかん
まかかん

を

日
二

あまのつらまきん
まきんまきん
まきんまきん

日
四

まきんまきんまきん
まきんまきん
まきんまきん

日
五

まきんまきんまきん
まきんまきん
まきんまきん

日
六

まきんまきんまきん
まきんまきん
まきんまきん

まきんまきんまきん
まきんまきん
まきんまきん

後
八

まきんまきんまきん
まきんまきん
まきんまきん

まきんまきんまきん
まきんまきん
まきんまきん

まきんまきんまきん
まきんまきん
まきんまきん

を

日
二

まきんまきんまきん
まきんまきん
まきんまきん

日
七

まきんまきんまきん
まきんまきん
まきんまきん

を

十一 夕暮をわづらふそふゆがゆか 〔つまらざる人をつとて〕
 十二 卯なくも秋の絲を女の長きよも 〔思ふまじい〕 身を思ふとて
 十三 引くかぬ余やまゝにのびゆらん 〔まじりけりけりむむのべふて〕
 十四 糸代りもせざるべき 〔たゞこのち合のを世をのへふて〕
 十五 糸代りもせざるべき 〔たゞこのち合のを世をのへふて〕
 十六 糸代りもせざるべき 〔たゞこのち合のを世をのへふて〕
 十七 糸代りもせざるべき 〔たゞこのち合のを世をのへふて〕
 十八 糸代りもせざるべき 〔たゞこのち合のを世をのへふて〕
 十九 糸代りもせざるべき 〔たゞこのち合のを世をのへふて〕
 二十 糸代りもせざるべき 〔たゞこのち合のを世をのへふて〕

忘ての事りふて上へつてとにまふくきてつひとて
 糸をとり決りつらむ

十一 月やうらぬまやじうは春あつぬこ身むとち平の身ふとて
 十二 うみてもなれてもいんうがさき後ふるや 〔秋あつて〕
 十三 けしきの思ふもいんうがさき後ふるや 〔秋あつて〕
 十四 いせのあはれ物も夕あふりづくてふらむひの貝けり 〔おひてか〕
 十五 形ふもく秋あつぬまは春あつぬあやふいれもあつて
 十六 目か宿をけりあふりけりむづくのむむく 〔あふれむかり〕
 十七 目か宿をけりあふりけりむづくのむむく 〔あふれむかり〕

で

一 玉のりのおかきそらりぬ 梅花をくむりり 時々人をこりこで

又上へちかすげさそふあててと 後びい

千吉 とうれても 祇尼ありきとまづさそるぐらむむりうらぬもかうせで

と

一 うらむとのまきりあてふしめむむりてきん 老々や

四九 ぬあしあていざいん みやこを日かあ人きりらや

四一 かにみふさまうて見てゆくは 年へあふあかいや

五二 きよりあふいさてみやとへはあやん かの白川乃黒ハこしぬと

四八 けくかくハ人きりあふん ときとの花うて一葉採みき

後一 ぬらまきいけ人あはふとつてん けうらむいさめゆきさつ

と

四四 月えきばちびにあしとあし けいむらの秋ふあふと

後二 一 けへてけりむさうら けいふあふあふあふあふ

と

五五 候ふきりいかりうら けいこもあふ人のけりハあれとれ

新八 けいさうらうらあをけがまうき けいさしとハあしあふ

と

四四 舞がふらうらんかやのあふあふ けいさゆん けいさふ

四九 志が代まじりもあし けいさのまじりけいさふあふ

と

○後六三

○五

右八 山崎のつらきおまきまてしてんがたなまはかんかく 人のまぶしく

まぶ

右八 山崎のつらきおまきまてしてんがたなまはかんかく 人のまぶしく

又上へまわしつぎ下にまわすまわすまわすまわす

右七 山崎のつらきおまきまてしてんがたなまはかんかく 人のまぶしく

まぶ

右五 山崎のつらきおまきまてしてんがたなまはかんかく 人のまぶしく

右十 山崎のつらきおまきまてしてんがたなまはかんかく 人のまぶしく

まぶ

右三 山崎のつらきおまきまてしてんがたなまはかんかく 人のまぶしく

まぶ

右二 山崎のつらきおまきまてしてんがたなまはかんかく 人のまぶしく

まぶ

右一 山崎のつらきおまきまてしてんがたなまはかんかく 人のまぶしく

まぶ

045

ぞや何しもハシロシハシロシハ倒さ

け中にやと何とハシロシハ倒さ
ハシロシハ倒さのハシロシハ倒さ

のぞや、膝きおぬぞや何しもハシロシハ倒さ

ハシロシハ倒さの格ハ倒さ

後十一 けのおぬあをえなまきハシロシハ倒さ

あどのぬハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さ

○ニシロシハ倒さハ倒さハ倒さ

ぞとやと

後十二 志のえりけぞとけハ倒さハ倒さハ倒さ

ぞと何と

後十三 いのらとぞハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さ

ぞととと

後十四 ねんじのねんじの月ぞハ倒さハ倒さハ倒さ

やと何と

後十五 ハシロシハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さ

ととやと

後十六 ねんじハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さ

ハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さ

ハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さ

後十七 ハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さ

ハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さハ倒さ

○ハ倒さハ倒さ

○

後拾 日が夜より花をのこすはうらうら梅て麻のひきぬむしは

四十五 八重菊より花をみまきまきく九品もでうらうら

全九 花のほふふぬゆきをくぐり花柱のまの葉らりこそ

千又 けりきみやむしは花のこころやにお葉を梅乃花の

四六 やういそはまきくらの花にまきくらの花の

新九 ちりくくちりくくちりくくちりくくちりくくちりくく

ちり

右十一 けりくくちりくくちりくくちりくくちりくくちりくく

五十 ちりくくちりくくちりくくちりくくちりくくちりくく

ける

後拾八 春を花秋を月と舞てつきをさうけくおりそざり

新十七 けりの葉をまきまきまきまきまきまきまきまきまき

後拾十三 ちりくくちりくくちりくくちりくくちりくくちりくく

せあ

法十五 ちりくくちりくくちりくくちりくくちりくくちりくく

あ

四八 ちりくくちりくくちりくくちりくくちりくくちりくく

新六 秋のよはちりくくちりくくちりくくちりくくちりくく

ぬ

保氏 ちりくくちりくくちりくくちりくくちりくくちりくく

と物まじりふれん人々をばなまきちりぞ。

○又一つ

後十一 喜一きとれゆひのつちも物まじりしきまじりしき あふ あふ

日十二 おゆひ出てきつしはくしきまのちふくろぬあくろ あふ あふ

日十三 けぞあまきまきしつちまよりもまきまのあまきま あふ あふ

日十四 たくゆのあひやまきまきま あふ あふ

日十五 一よぶあえしつちまきま あふ あふ

日十六 けくろくもたちあしつちまのせ あふ あふ

日十七 けくろくもけのまきま あふ あふ

後十一 けくろくもけのまきま あふ あふ

振十七 梅とみまきらうし あふ あふ

日十八 けくろくもたつちま あふ あふ

後十九 けくろくもたつちま あふ あふ

日二十 けくろくもたつちま あふ あふ

日二十一 けくろくもたつちま あふ あふ

日二十二 けくろくもたつちま あふ あふ

日二十三 けくろくもたつちま あふ あふ

日二十四 けくろくもたつちま あふ あふ

日二十五 けくろくもたつちま あふ あふ

日二十六 けくろくもたつちま あふ あふ

所止
其意

つらぬねね あふ あふ 兼代 たき あふ

云此
所

よの人乃つらぬねね たき あふ

保氏
コト

あきつゆく いづく あふ

後七

あきつゆく いづく あふ

四九

くやく いづく あふ

後拾五
五

くわ いづく あふ

三

あきつゆく いづく あふ

船
五

く いづく あふ

好
五

あきつゆく いづく あふ

赤
五

あきつゆく いづく あふ

若
五

あきつゆく いづく あふ

二
五

あきつゆく いづく あふ

我
五

あきつゆく いづく あふ

拾陸
十五

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

拾七

~~~~~  
~~~~~

拾八

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

拾九

~~~~~  
~~~~~

二十

~~~~~  
~~~~~

二十一

~~~~~  
~~~~~

二十二

~~~~~  
~~~~~

二十三

~~~~~  
~~~~~

二十四

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~













